春の全国交通安全運動

◎ハッキリ手を挙げハッキリ渡ろう横断歩道

自動車を使用する皆さんへ

自動車税の納税と納税証明のお願い

昭和四十八年度の自動車税の納税告知書が、二十日頃皆さんのお手元へ届くと思いますが、県では自動車税の事務処理を機械化し、経費を節約しょうと努力しています。

納税告知書や督促状（様式変更により本状で納税可能）などの領収済連絡書等を直接機械にかけますので、『納税告知書や督促状を折ったり汚したりしないよう』お願いします。

又、昭和四十八年度以降自動車の継続検査のための納税証明書は、従来財務事務所窓口においでいただき、継続検査申請書に納税証明印を押していましたが、今度皆さんの手数を省くために納税告知書や督促状に納税証明欄を組み込みました。

従ってこの納税告知書や督促状を使って銀行などで納税されますと、「納税証明欄に日付印が押され、自動的に納税証明が発行される」ことになります。

納税される場合には、必らず県からお送りした納税告知書か、督促状を使用してください。領収証書をうけとったら納税証明書の部分を切りとって大切に保管して継続検査の際に提示してください。

なお、「納税証明欄に無効表示されているものや、県外で継続検査をうける方、又は紛失した方」は、今までどおり財務事務所窓口に領収書を持参して納税証明書をもらってください。

不明の点は、財務事務所におたずね下さい。

（新津財務事務所　TEL新津(2)―1141）

点火時期調整と排気ガス減少装置を義務化

都市における光化学スモッグの発生は、現在重大な社会問題となっておりその対策は緊急を要するものとされています。このような事態に対処するため、運輸省では自動車の安全基準である「道路運送車輌の保安基準」の一部を本年一月改正し、自動車排出ガスの成分のうち光化学スモッグの形成要因といわれている炭化水素（HC）及び窒素酸化物（NO）の排出量の低減を図るため、可能な限り多くの自動車に早急にこれらの排出ガス減少装置の装着を義務づけるとともに、とりあえず光化学スモッグ対策の効果を促進するための漸定措置として点火時期の調整を実施するものです。

点火時期の調整

◎調整期限

四月三十日まで

ガソリン又は液化石油ガス（LPガス）を燃料とする自動車は、昭和四十八年四月三十日までに点火時期の遅角調整をしなければなりません。

但し二輪自動車、小型特殊自動車、大型特殊自動車は除外されます。

点火時期の調整は、整備工場又は特定スタンドで実施し実施済の自動車には点火装置に封印するとともに、助手席側の三角窓等に「点火時期調整」のステッカーを表示することになっています。

ステッカーを表示していない車（点火時期調整しない自動車）は、昭和四十八年五月一日から運行できないことになります。

排出ガス減少装置

◎取付期限

◇エンジン排気量一八〇〇cc をこえる乗用車

昭和四十九年十二月三十一日迄

◇その他の自動車

昭和五十年三月三十一日迄

点火時期の調整を実施した自動車は、これに引続き右の期日までに運輸大臣が指定する排出ガス減少装置を取付けなければなりません。

但し、二輪自動車、軽自動車、小型特殊車、大型特殊車及び昭和四十二年十二月三十一日以前に登録した自動車は除外されます。排出ガス減少装置の取付けは整備工場又は特定スタンドで実施し、実施済の車には「排出ガス対策済」のステッカーを助手席三角窓等に表示することになっています。

阿賀野川の魚にご注意

下流ほど多い水銀量

このたび、新潟県有機水銀中毒対策本部で阿賀野川流域における魚類の総水銀量の検査を実施しました。

それによると、魚類の総水銀量は、全般的に減少の傾向を示しております。

しかし、一部魚類の中には一PPMをこえるもの（ウグイ、ウナギ）も見受けられますので、安全性の確保、ならびに予防的見地から底棲性でしかも高令魚（大きな魚三十センチ以上）については、これまでどおり、ひきつづき長期かつ大量に食べることはさけて下さい。

表―1　魚種別水銀量　（単位 PPm）

魚種 / 量		ニゴイ	ウグイ	フナ	コイ	ウナギ	ナマズ	オイカワ	全数
総水銀量	最高	0.993	1.022	0.800	0.724	1.181	0.904	0.094	1.181
	最低	0.032	0.040	0.020以下	0.060	0.066	0.604	0.043	0.020以下
	平均	0.250	0.224	0.212	0.218	0.541	0.754	0.069	0.228

表―2　地域別・魚種別水銀量　（単位 PPm）

水銀量 / 魚種	量 / 地域	上流①	上流②	中流	下流
総水銀量	ニゴイ 最高	0.225	0.193	0.835	0.993
	ニゴイ 最低	0.085	0.032	0.094	0.226
	ニゴイ 平均	0.177	0.089	0.311	0.497
	ウグイ 最高	0.893	0.251	0.642	1.022
	ウグイ 最低	0.040	0.088	0.060	0.103
	ウグイ 平均	0.216	0.159	0.149	0.342
	ニゴイ、ウグイの全平均	0.212	0.115	0.189	0.398

村のできごとあれこれ

故小林存先生を偲ぶ

出湯　石水亭で催す

「横越村誌」を始め、「越後方言七十五年」など多くの民俗学著書を残して昭和三十五年三月十日午后五時五十分、新潟市学校町の自宅で永眠された、故小林存先生（88才）の「十三回忌」に、故人のゆかりの地、出湯石水亭を会場に「小林存先生を偲ぶ会」が十八日に催された。この日、故先生と交遊の高志路、渡辺編集局長。郷土史家、田村順三郎氏。「小林存伝」を執筆中の新潟日報、川崎喜道嘉氏。考古堂書店主佐久間氏、県教育庁文化行政課、駒形主事等に村内では伊藤威夫、藤田健太、石井栄蔵、市村助正、横山清作、佐藤登、高橋良美、塩井三作各氏など約三十名が列席した。

出席の諸氏年度下半期の新婚学級が開催された。

本村では、昭和四十七年の乳児の死亡はゼロであったが、未熟児の出生が五人死産が六人と多い。

週刊誌や雑誌だけの知識だけでなく、母親学級や、新婚学級に参加して、正しい知識を身につけてほしいものである。

「玉石同架」以後に多くの歌があり、晩年は女性を恋う歌が多い等々のエピソードなどが語られた。

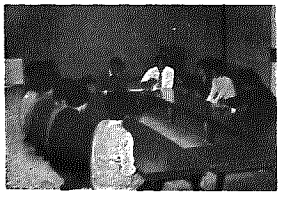
現代に於て、故人の足跡を偲ぶ事は意義がある。存先生は土中から出た火炎土器のようなもの。復げんに苦労する。

から精神的な豊かさが欠ける

横越分館で婦人と青年のつどい

横越分館では、去る17日午后六時半から公民館に於て、「婦人と青年の集い」を開催され、参加六十名（婦人32名青年28名）が四グループに別れての話し合いが行われた。

この日、田中館長、四部落の正副区長もオブザーヴァーとして列席し、高橋分館長の挨拶のあと、日程説明があり四グループで、二時間の「話し合い」が開かれ、全体会に於て、佐藤孝一、阿部嘉寿一高橋良衛、佐藤正一郎各司会者の部会報告があり、田中館長から「青年の問題。嫁の問題、農業の今後の問題など、有意義な話し合いの中で、幾つかの問題点が提起された。今後も回を重ねてほしい」と指導講評がなされた。



第六回珠算大会

米木友子さんらが一位に

横越村西工振興会は、三月二十五日村公民館の後援を得て第六回珠算競技大会を開催した。

大会には、小、中学生百二十名が参加。

団体総合一位に板井珠算塾が公民館長杯を獲得、個人総合では、米木友子さん（第一部）らが一位となった。

成績は次のとおり。

○団体総合

①板井珠算塾。②佐藤珠算塾。②長谷川珠算塾。③沢海珠算塾。

○部門別団体総合（一位のみ）

▽一部（四年）長谷川珠算塾。▽二部（五年）長谷川珠算塾。▽三部（六年）板井珠算塾。

○個人総合（一位のみ）

▽一部米木友子。▽二部阿部美紀子。▽三部山田慶子。▽四部（五年）加藤志保▽五部（中学生）五十嵐和子。

○種目別（一位のみ）

▽読上算　米木信子

▽読上暗算　武藤惠子

連青団長に田村孝平君

村連合青年団は、三月二十五日定期総会を開催した。

昭和四十八年度の活動方針や事業計画、予算案について審議したあと、役員改選が行われ、次のように決った。

団長　田村孝平　24才（横越）

副団長　高橋進一郎　23才（横越）

〃　小畑戸祥子　20才（小杉）

会計　永木兵一郎　23才（木津）

梶島先生をむかえて

新婚学級

生まれてくる子どものしあわせのために、しっかりした家庭設計をたてて健康で明るい家庭生活をおくっていただきたいと三月十五日県医務課参事梶島史子先生を招き、四十七

県下銃剣道大会で長瀬君が個人優勝

地域にスポーツとしての銃剣道を普及し、指導に格段の努力を傾注して、これ迄「全国大会出場」など数々の成果の「銃剣道連盟横越支部」では、去る十八日に開催された「第八回県下銃剣道大会」に青年部。一般部に四チームが出場したが、このうち青年の部で、個人と、団体で優勝の栄冠を確得した。

個人戦の優勝は、長瀬正夫君が、絶対的な強みで優勝をかざり、また団体戦、青年の部で横越B（佐藤正明。田村初男。高橋憲夫）が、出場10チームを征して優勝した。

なお一般の部では、横越支部に敢斗賞が贈られた。

健全な家庭を育てよう『新しい村づくり』研修会開催

新しい村を目指して、その一番基礎になる「家庭」に健全に育てていくにはどうしたらよいだろうか。

去る三月二十八日午前、午後にわたり熱心な討議が行われた。青年団、婦人会、区長村会議員、公民館運営審議委員の皆さん方、約百三十名が参加された。主催の公民館、県新生活運動協会の進行によって、開会式後、笹神村光円寺住職渡辺量氏のユーモアの中にも、農村家庭の実態を的確にとらえた指人形劇を参観し、問題点を把握、続いて五部会にわかれて賞の高い話し合いが行われた。中食後、全体会でその成果を発表し合った後、新潟県立女子短大教授廣二教授のコミュニティの基礎となる家庭のあり方について学問的な基礎的な講演を聞き散会した。

今後又こういう機会をつくり、大勢の方から参加して頂きたい。